



RESOLUTION No. 26) INTERNATIONAL TRADE UNION SOLIDARITY WITH CENTRAL AMERICA

第26号決議案) 中米との国際労働組合連帯

第29回国際公務労連 (PSI) 世界大会
2012年11月27日-30日、南アフリカ・ダーバン

中米小地域が、経済、環境、社会、労働、政治の上で憂慮すべき問題を抱えており、過去20年の中で最も複雑な時期にあることに懸念をもって留意し、

中米諸国は、一連の困難に見舞われており、その大半が国連開発プログラム (UNDP)、ILO、世銀が主要報告書で社会的疎外、劣悪な健康・教育サービス、低所得、環境の悪化として取り上げられ、記録に残っていることを意識し、

人権と労働権の長きにわたる侵害が、ITUCとGUFによって国際的に非難されてきたこと、ならびに、労働組合幹部の殺害が増えたこと、薬物売買の惨劇が生んだ市民の不安増大と、それが中米小地域での殺人事件を何千も増加させてきたことを考慮し、

中米では5歳未満の子供の35%が、慢性的な栄養不足に苦しみ、一部の国ではその値が50%に届いていることを把握し、12歳から24歳の若者の20%以上が教育にも雇用にも従事せず、熟練労働が効率で移出し、世帯の40% (1800万人) が自由市場システムや国から見捨てられ、中米には国民の55%以上がフォーマル経済に従事する国がなく、大半が不安定労働に携わり、社会保障が適用されるのは平均でわずか24%であり、教育と保健に対する投資が平均で国民1人当たり19ドルであり、効率的で公平公正、進歩的な税制を敷いた国はなく、質の高い公共サービスを保証していない状況を把握し、

小地域では大きな洪水が発生し、気候変動の影響を受けやすいうえに適切な土地管理がないことで事態が深刻化し、人間開発の持続可能性が大きく損われる事実と相まって、

小地域が資源を生み出す生物生産力を超えた資源の大量消費と、小地域を脅かす気候事象の頻発、今後40~50年に摂氏2.5~4度見込まれる温度上昇を警戒し、

中米は気候変動の原因である炭素を0.5%以下しか排出していないが、その影響を最も大きく受けていることをふまえ、

そのうえで、第29回世界大会は、PSI書記局が国際連帯で得られた財源を優先的に活用するために必要な措置を講じ、上記の主要な問題に対して同地域の労働組合運動を継続することを決議する。

行動プログラムおよび規約を含む大会決議 [Congress resolutions](#) を参照のこと